

明治から昭和初期における長崎の道路網の形成と街並みの変化

長崎大学工学部 学生員○田中秀紀

長崎大学工学部 正 員 岡林隆敏

1. はじめに

著者らは、近代土木技術の適用と整備の視点から、近代長崎の都市形成史を研究している。そこで、昨年は、市域拡大の基礎になる明治から昭和初期にかけての長崎港埋立の経緯を報告⁽¹⁾した。本研究は、都市の骨格になる道路網形成の歴史と、それに伴う街並み景観の変化について調査し、考察したものである。幕末には、居留地が建設され、大正期には西日本の中核都市へ成長した長崎では、多量の古写真が残されている。著者らは、長崎大学、長崎市教育委員会等、県内外の主要な博物館、資料館からこの時期の写真資料を収集した。これらの映像資料より、幕末から昭和初期における道路の機能と景観要素を抽出した。地図、文献資料から復元した道路網の整備と合わせて、長崎市における道路網と街並みの変化について報告する。

2. 明治初期から昭和初期における都市形成

平地の少ない長崎では、長崎湾を埋立てることにより市域を拡大してきた。明治15～26年の第1次、明治30～36年の第2次長崎港改修工事により、現在の長崎市の骨格が形成された。大正9年～昭和2年にかけての第3次港湾改修工事により、近代的な港湾施設を完成させた。これらの経緯を図1～図4に示した。この間、下水道、上水道、橋梁の建設が進められ、近世の都市から近代都市へと変化する。3方が海に囲まれた長崎では、近代都市建設のために、まず主要な道路の改修と建設が行なわれた。明治期の主要な土木事業を表-1に示した。

表-1 長崎港の埋立と道路網の形成

明治10～26年	第1次港湾改良工事
14～15年	日見新道開さく工事
18年	長崎・茂木間、長崎・時津間の県道完成
18～22年	中島川変流工事
	長崎区に市制施行
24年	本河内高部水道施設完成
30～37年	第2次港湾改良工事
36年	第1回水道拡張事業、本河内低部ダム完成
37年	西山ダム完成
大正9～13年	第3次港湾改良工事
10～15年	日見国道トンネル開通
15年	第2回水道拡張事業、小ヶ倉ダム完成
	長崎市都市計画法施行

3. 長崎市の道路網の形成

明治期の長崎の道路網に関する詳細な資料がないので、主要な地図から道路網の形成を、現在の地図に表示したものが、図-1から図-4である。それぞれ、明治初期(2年頃)、明治中期(20年頃)、明治後期(40年頃)、昭和初期(2年頃)の主要な道路を示したものである。

図-1は、外国人居留地の道路が整備されているだけで、長崎から外に出る道路はまだ近代化していない。

図-2になると、旧長崎街道、さらに、市街地より北部への時津街道、東部への茂木街道が、幅員4間ほどの道路として整備された。

図-3では、北部に大規模な埋立てがなされ、埋立地の上には道路が



図-1 明治初期

図-2 明治中期

建設され狭い海岸沿いの道路が、埋立地の中を通るようになっていく。

図-4になると、それまで切り通しであった国道の日見峠に、日見トンネルが建設され、長崎市から他県へのアクセスが効率的になっている。市内でも、大正15年都市計画法の施行により、計画的な道路建設が行なわれるようになっていく。

これらの図を見て分かるように、道路網の変化は、埋立地において生じており、埋立により道路を整備したことが分かる。旧市街地では、現在でも幅員が3～4間である。戦後の戦災復興計画まで市街中心部の道路の急激な変化は見られない。

4. 道路と街並み景観の変化

収集した写真の中から、代表的なものを写真1から写真6に示した。これらの写真から、道路の機能的な側面、幅員、路面、舗装などを、また景観的な側面、街並み、街灯、側溝、縁石などの変化について調べた。

写真-1と2は、明治初期の長崎市街の中心部である。幅員は4～5間で石畳舗装されている。写真-2が長崎街道である。写真-3と4は明治中期の写真である。写真-3は、埋立地の上に新設された時津街道の始点付近である。写真-4は、明治15年に完成した日見峠の切通しである。幅員はいずれも4間程度と思われる。写真-5と6は、大正から昭和にかけての写真である。写真-5は、市内の主要道路である大浦海岸通りであるが、まだ電車が通っていない。写真-6は、大正15年に完成した日見トンネルである。当時、最長の道路トンネルといわれている。

5. まとめ

長崎市の道路網の形成を見ると、埋立地に新しい道路が造られ、それが幹線道路として機能している。旧市街の道路は、余り変化していないことが分かる。道路の景観を見ると、近代化する面はあるが、主要な幹線以外は著しい変化は見られない。都市計画法施行以降、主要幹線が拡幅されることになる。

〔参考文献〕(1) 岡林隆敏、吉田優：長崎港の埋立と近代都市の形成、土木史研究、第12号、P295～304、1992年6月。



図-3 明治後期

図-4 昭和初期

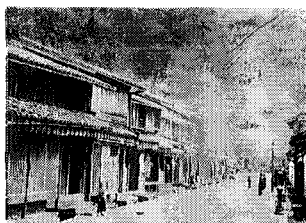


写真-1 長崎市街中心



写真-2 長崎街道（新大工）

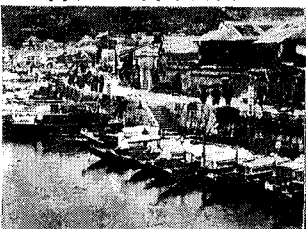


写真-3 時津街道（出島付近）

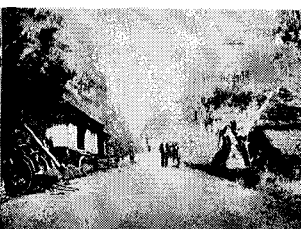


写真-4 日見峠

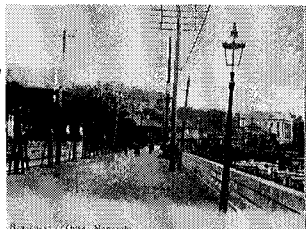


写真-5 大浦海岸通り

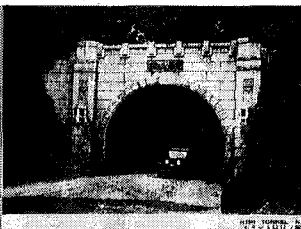


写真-6 日見トンネル